

# アサヒグループ ホール棟 「フラムドール(炎のオブジェ)」



所在地：東京都墨田区吾妻橋1-23-1  
 炎のオブジェの大きさ：約43m×14m×14m  
 施主：アサヒグループホールディングス株  
 オブジェデザイン：フィリップ・スタルク  
 竣工：〈建設時〉1989年  
 照明リニューアル：2015年7月  
 電気工事：〈改修時〉株阿久津電機

S373

アサヒグループホール棟の上にそびえ立つ炎をイメージした巨大オブジェ「フラムドール」。同社の象徴的なモニュメントであると同時に隅田川の特徴的なランドマークとして存在感を示しています。このライトアップ用照明がLED投光器に改修され、適度な陰影と光沢で再生・グレードアップ。デザインが本来もっている豊かな流線型を夜空に浮かび上がらせています。

## 浅草エリアの夜空に黄金色に浮かび近隣や観光客に愛される「フラムドール」

隅田川の畔、吾妻橋の東に建つフィリップ・スタルク設計のアサヒグループ吾妻橋ホール。この上に同氏デザインによる巨大オブジェ（約43m×14m×14m）が設置されています。燃える炎を象徴した「フラムドール（フランス語で金の炎）」と呼ばれるもので、「躍進するアサヒビールの燃える心の炎」を象徴したオブジェです。国内外を問わず、台東区を訪れる観光客は年間約4,500万人。この代表エリア浅草界隈において、夜空に黄金色に浮かぶこのオブジェを背景に記念撮影をする光景は後を絶たず、東京スカイツリーとともに吾妻橋からの撮影スポットとして人気を博しています。

## LED投光器により審美性豊かに蘇った「フラムドール」のライトアップ

オブジェは吾妻橋ホールとともに1989年に竣工。このときから1kWと700Wのメタルハライドランプ投光器でオブジェのライトアップを行ってきました。今回これらをLED投光器に改修し、単に省エネを図るだけでなく、より伸びやかにリ・モデリングする設計としました。

オブジェは流線型で光沢の強い表面仕上げとなっているため、光源の映り込みや正反射方向の輝度溜まりを抑制する光の強弱、配光角、エイミングを3Dシミュレーションにて解析。事前に主要視点場と設定した3か所からの見え方を相互に確認し最適化を図るツールとしました。

竣工当時から愛されてきたオブジェとそのライトアップの雰囲気はそのままにするため、設計照度はそれまでと同等の200～300ルクスとなるよう投光器のパワーと配光角を選定。リニューアルに用いた投光器は5000K、Ra70の1kWメタルハライドランプ相当LED投光器と、400Wメタルハライドランプ相当LED投光器。広角形・中角形・狭角形を適切に配置することで、輝度溜まりへの配慮と伸びやかなモデリングを実現。黄金色のオブジェの熱く高輝度に燃え盛る様子を白くハイライト表現するため、素地色に近い暖色系を敢えて選ばず白色光を用いました。

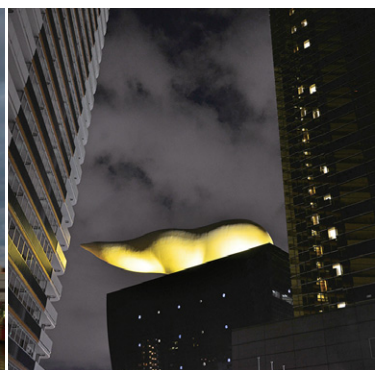
LED投光器により審美性豊かに蘇ったオブジェのライトアップは、結果約50%の省エネを実現。一層愛されるランドマークとして吾妻橋に息づいています。



駒形橋の視点からの全景 吾妻橋を横に、モニュメントの形状が伸びやかにかつ単独で浮かび上がるため、最も美しい情景を見ることが出来る



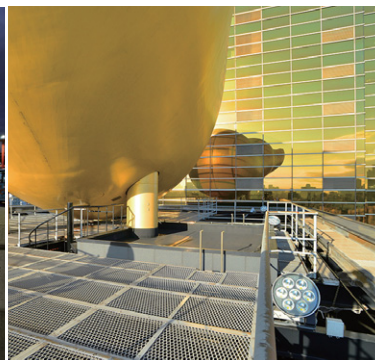
吾妻橋の視点からの全景 本社ビル、東京スカイツリーと横並びになり、東京観光を代表する景観のひとつをライトアップで惹き立て、色濃く浮かび上がっている



墨田区役所の視点場からの全景



吾妻橋から見る「フラムドール」を背景に記念撮影を楽しむ観光客



LED投光器設置の様子

主な納入機器一覧				
設置場所	器具名	形名	台数	備考
屋上	LED投光器	LEDS-50405NW-LJ2	5	LED 平均消費電力：593W
		LEDS-50405MW-LJ2	2	LED 平均消費電力：593W
		LEDS-20401WM-LDJ	2	LED 平均消費電力：200W